

令和5年度 タウンミーティング (第21回)

「地域経済活性化のための人財育成 ―エコノミックガーデニングの知見から―」

開催主旨

■エコノミックガーデニングについて学術的論拠をもとに地域に広く発信するとともに、地域社会の構成メンバー間の連携を深めるための場を作る。

開催日：令和5年12月9日(土)

場所：徳島大学地域連携大ホール
(徳島市南常三島町1丁目1番地)

主催：徳島大学人と地域共創センター

共催：一般社団法人国立大学協会

後援：福井工業大学

内容

(1) 開会挨拶

徳島大学人と地域共創センター
副センター長 山中 英生

(2) 第一部 基調講演

「エコノミックガーデニングと地域産業政策」
大阪経済大学経済学部教授 梅村 仁

(3) 第二部 講演

寒川町環境経済部
地域経済コンシェルジュ 高島 利尚、
産業振興課企業支援担当 吉田 慎也
大阪産業局企業支援事業部 矢野 貴朗、
MOBIO 事業部 田中 宏明
鳴門市産業振興部商工政策課長 藤瀬 蔵
税理士法人 Global Activation 代表 高岡 彰治

(4) 調査報告

生駒市地域活力創生部長 領家 誠

(5) 第三部 パネルディスカッション

「エコノミックガーデニングの実態と課題
～学生からパネリストに対する質疑応答～」

(6) 閉会挨拶

徳島大学総合科学部長 高橋 晋一

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で21回目となった。

アメリカのコロラド州リトルトン市で編み出された地域経済活性化施策である「エコノミックガーデニング」は、地域経済の持続的成長における成功事例であり、地域社会に税収の増加や雇用の創出など、大きな経済効果をもたらした。日本においても地域経済活性化の一手法として様々な地方自治体で導入されている。その仕組みは、地方に存

在する中小企業を振興すべく、産学官公民金が連携して支援する有機的な一つのネットワークである。

今回は、エコノミックガーデニングの知見について日本における先進事例をもとに地域に広く発信すること及び地域社会の構成メンバー間の連携を深めるための場を作ることで徳島県内全域においてエコノミックガーデニングの促進を図ることを目的として開催した。

シンポジウムには地域住民や関係者約110名が参加。徳島県、神奈川県、大阪府の各自治体における地域企業支援のあり方、産官学連携の方法、地域間ネットワークなど、エコノミックガーデニング施策の現状と課題が明確となった。さらに、今後の日本版エコノミックガーデニング施策をどのように進めていくかという方向性を共有する機会となった。



タウンミーティングの様子



チラシ

令和5年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第20回)

「グリーンインフラとまちづくり」

開催主旨

■今後の持続可能なまちづくりにおいて重要な視点となる可能性を秘めた「グリーンインフラ」について理解を深め、まちづくりのあり方を考える。

開催日：令和5年6月10日(土)

場所：徳島大学フューチャーセンター A.BA
(徳島市南常三島町1丁目1番地)

オンライン同時開催 (Zoom 使用)

主催：徳島大学人と地域共創センター、日本環境共生学会

内容

(1) 開会挨拶

日本環境共生学会会長 福田 敦
徳島大学 副理事 山中 英生

(2) 第1部 基調講演

演題 「海陽町を対象とした水田の貯留効果と
グリーンインフラ」

徳島大学理工学部長・教授 武藤 裕則

(3) 第2部 パネルディスカッション

テーマ 「コウノトリと共存する農業と地域活性化」
・話題提供

① グリーンインフラとしてのコウノトリ

金沢大学先端観光科学研究所 教授 菊地 直樹

② とくしまコウノトリ基金のチャレンジ!

徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
河口 洋一

③ コウノトリが飛んできた! 鳴門市に残る酒蔵の
取り組み

株式会社本家松浦酒造場 十代目蔵元・杜氏 松浦 素子
・総合討論

[司会] 徳島大学 副理事 山中 英生

地域交流シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、今回で20回目の開催となった。

「グリーンインフラ (GI)」とは、自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用のことである。コンクリートを使う従来のインフラ (グレーインフラ) とグリーンインフラを融合したハイブリッドインフラ (HBI) が今後の持続可能なまちづくりには重要な視点となる可能性がある。本シンポジウムはこうしたグリーンインフラを考えたまちづくりのあり方を考えることを目的として開催した。

第1部では、徳島大学理工学部長の武藤教授より流域治水でのグリーンインフラの役割について講義いただき、第

2部ではグリーンインフラ維持のための「社会システム」としてのコウノトリ保全活動などについて、ゲスト講師より話題提供をいただいた。その後、コウノトリ保全活動、自然環境保護と地域経済、地域のつながり、レンコン・米づくりへの付加価値などについて、参加者を交え総合討論を行い、相互理解を深めた。

シンポジウムには、研究者や行政・インフラ関連会社・関係者など約100名が参加した。



シンポジウムの様子



チラシ

「徳島大学・明治大学・徳島県連携事業」

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域・産官学連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

2. 連携事業

第10回目となる連携事業は、徳島県が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、令和6年1月20日(土)にオープン講座「人は遍路に何を求めるのか」を明治大学駿河台キャンパスアカデミーホールで開催し、135名が受講した。

四国遍路は、弘法大師空海が修行した八十八カ所の霊場をたどる巡礼を指すが、そのルーツについてはあまり知られていない。また、コロナ禍を経て国内の巡礼者が戻りつつあることに加え、インバウンドによる外国人の人気が高まっており、四国遍路は、現在国内外から注目を浴びつつある。

今回の連携講座では、人が四国遍路に何を求めるのかという視点について、有識者3名からそれぞれ講演があった。最初に、徳島県立博物館館長の長谷川賢二氏から、「四国遍路成立の前夜―「海辺の巡り」を中心に―」と題して、弘法大師空海の生涯や、源流としての四国辺地の概念から四国辺路への変遷を通じ、現在の四国遍路に至るまでのルーツ等について、学術的な視点からの講演をいただいた。続いて、明治大学リバティアカデミー講師・松本大学非常勤講師の中西満義氏から、「弘法大師空海の聖地を訪ねる西行の旅」と題して、四国遍路に関する歌集から、西行の旅を中心とした四国遍路に関する考察について講演をいただいた。

続いて、徳島大学教養教育院のモートン常慈准教授から、「人は遍路に何を求めるのか～西洋人遍路の場合～」と題し、過去の西洋人遍路に関する体験記などを紐解き、人が遍路に求めるもの、四国の魅力などの考察や、最近増加している外国人遍路の課題等について講演いただいた。

講演後は、3人の講演者がパネルディスカッションを行い、それぞれの視点による四国遍路のあり方や人が四国遍路に求めるもの、四国遍路の現状と課題、今後のあり方などについて議論が行われた。参加者からも多数のリアクションがあり、講座は盛況に終わった。皆さんの四国遍路や四国という環境資源に関する関心の高さが伺える内容となった。

3. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当として開催している。

このほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業やフィールドワークの開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業を実施しており、今後も連携を継続していく。



連携講座の様子